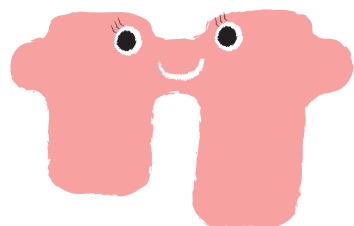


知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて

学都  
仙台 SENDAI  
宮城 MIYAGI

サイエンスデイ



Illustrated by Yoshie OHKUSA

五色のサイエンスの文字は、「五感で感じる」と  
と「科学の多面性」を表しています。また黒箱は、  
「ブラックボックスを開けること」と「多様な主体  
が一堂に集う場」を表しています。

科学の「プロセス」を  
子どもから大人まで  
五感で体験できる日

日時：2012年7月15日(日) 9:00~16:00

※交流会は後日開催

会場：東北大学川内北キャンパス講義棟 (仙台市青葉区川内 41)

対象：子どもから大人までどなたでも

主催：特定非営利活動法人 natural science

共催：東北大学 独立行政法人産業技術総合研究所東北センター

後援：宮城県、仙台市、東北経済産業局、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

※昨年度実績  
(今年度申請中)

(独) 産業技術総合研究所東北センター、(社) 東北経済連合会、(社) 日本技術士会東北支部、  
(公財) 東北活性化研究センター、(社) みやぎ工業会、(社) 発明協会宮城県支部、  
宮城県中小企業団体中央会、(財) みやぎ産業振興機構、東北学院大学、東北工業大学、

河北新報社 TBC 東北放送 仙台放送 KHB 東日本放送 NNN 仙台放送 ミヤギテレビ Date fm  
読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、産経新聞社東北総局、毎日新聞仙台支局、日刊工業新聞仙台総局

出展案内(2012年)

## 開催趣旨

近年、我が国の科学技術研究および産業競争力の強化を実現する「科学技術創造立国」の基盤を揺るがす深刻な問題として、子どもたちの「理科離れ」が叫ばれています。「理科離れ」は単に「個人的に理科が嫌い」という問題ではなく、理科を学ぶ過程で本来養われるはずの「知的好奇心」や「論理的思考力」等の低下を意味しています。その結果として、文理問わず高等教育を理解できない学生が増大し、大学教育の質の維持が著しく困難に陥っているというかたちで問題は顕在化しており、もはや「理科離れ」問題は、国民全体による知の問題、すなわち社会的リスクであると捉えられています。

これらの社会的背景に、社会の細分化・複雑化に伴い、個々は専門家に任せ、表面だけを利用するブラックボックス化が進んだことがあります。その結果、わたしたちは効率性と引き換えに、本来そこにあるはずの自己と対象との関係性を実感することが困難な状況に陥っています。しかしながら本来、自己と対象との関係性の集積が、すなわち社会です。この自己と対象との関係性が見えない危機こそが、個人・地域社会・国レベルでの問題の本質的な原因と natural science では捉え、そこから解決策を見出していきます。

自己と対象との関係性を実感しやすい範囲として、natural science は社会の中でも特に“地域”に着目します。自分が社会に与えている影響と自分が社会から受けている影響を実感できることで、人は自らの社会的存在意義を自覚し、主体的に活動することができます。このようなひとり一人の内発的モチベーションによる主体的なアクティビティが、地域をつくり、そして社会全体をつくるドライビングフォースとなります。つまり“地域”こそが、社会をつくる基盤であると同時に、社会全体をつくる原動力として、大きな可能性を秘めているのです。

「科学」の本質は観察からはじまります。対象に直接触れ、自分の目で見て、自己と対象との関係性を五感で感じることにし、知的好奇心・論理的思考力が養われることはありません。「科学」と言うと「科学は専門家だけが知っていればいい」と自己と科学との関係性を認識しようとしめない風潮や、または成果ばかりが注目されがちですが、そこに至るまでのプロセスにこそ、知的好奇心や論理的思考力をはじめとする、科学的なものの見方・考え方、すなわち自己と対象との関係性を構築する姿勢が隠されています。

natural science では、知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて、「科学」を切り口に、自己と対象との関係性の可視化・再構築の場として機能することを「科学で地域づくり」と位置づけ、日々の科学教育プログラムの開発・実施のほか、大学・研究機関や企業、行政機関等の皆様と連携し、2008年から毎年、体験型科学イベント『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を開催しています。

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は、「科学」って、そもそもなんだろう？」をテーマに、製品や成果等の“結果”だけでなく、科学や技術の“プロセス”を五感で感じられる場づくりを通じて、子どもから大人まで各人各様の感じ方から自己と対象との関係性を可視化・再構築する場として機能することを目指すものです。

そもそも人は生来何が真実かを知りたがる存在です。そしてそれが他人に理解されれば嬉しいです。この認識に立つ時、科学は初めて人の本性に根ざすものとなり万人のものとなるでしょう。こうした共感の輪を生み出す場となることが、次、その次に登場する科学や技術が継続的に生み出され、さらなる心豊かな社会が達成されていく土壌となるはずです。

このような場が、企業や大学・研究機関、行政等の枠を超え、「科学」を切り口とした地域における新たなコミュニケーションの場として機能することで、知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資することを目指し、今年も『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を開催いたします。皆さまのご理解・ご参加を、心よりお待ちしております。

## 応援メッセージ ①

### 宮城県知事 村井 嘉浩 さん

『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ2012』の御開催、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。私たちの身の回りにあるモノや現象は、当たり前前に存在するものとして見聞きしてしまいがちですが、その成り立ちにはいくつかのプロセスがあります。普段の生活の中では、そのプロセスを確認することは難しいかもしれませんが、このイベントでは、県内の優秀な大学・研究機関、関連企業の皆さんの御協力の下、プロセスを五感で体験できる場を提供していただくと伺っており、子どもから大人までが楽しみながら、科学や技術を身近に感じられる絶好の機会であると思います。この体験を通して、皆さんが「なぜ?」「どうして?」と感じている疑問が解決するかもしれません。さて、本県は、昨年3月に発生した東日本大震災により甚大な被害を受け、その爪痕はまだ大きく残っています。復興に向けた取組ははじまったばかりですが、このイベントに多くの企業様や県民の皆さんが参加され、宮城、東北を元気にするイベントになるとともに、科学の力が復興の原動力になることを期待します。



### 仙台市教育委員会 教育長 青沼 一民 さん

このたびの『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ2012』のご開催は誠に意義深く、心よりお祝い申し上げます。私たちの街「仙台・宮城」は、世界中から心のこもった温かな応援をたくさんいただきながら、まさに東日本大震災からの復興へと歩み始めたところです。本市では、現在もお他校の校舎や仮設校舎で授業を行っている小・中学校があります。今回の参加者の中にもいろいろな制約の中で、たくましく学んでいる小・中学生がいることと思います。これから仙台・宮城の復興の担い手となる小・中学生のみなさん、自然と人間が共生していくときに科学技術の発達は大変重要な意義があります。この企画はふだんなかなか見られない科学・技術のプロセスを五感で体験できる絶好の機会です。さらに、その一つ一つの講座プログラムを開発した地域の大学・研究機関・企業等の研究者や技術者の皆さんにも接することができる機会でもあります。みなさんの希望の苗を大きく育てていってほしいと願っています。その姿に多くの方々が励まされ、故郷復興の歩みを進めることでしょう。がんばれ! 仙台・宮城の子どもたち



### 経済産業省 東北経済産業局長 豊國 浩治 さん

今年も『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ』開催に向けての活動がスタートしました。昨年に続いてメッセージということですので、今年は「理科系になろう」という言葉を贈ります。自分は文科系ですが、それでも理科系を勧めるのは、2つの理由があります。社会は文科系、理科系さまざまな人たちで成り立っていますし、それぞれの人が役割を果たしています。でも文科系の学問分野である法律や経済だけで社会を豊かにすることは出来ないのです。社会を豊かにしていくためにはどうしても、科学の力、理科系の力が必要です。そんな重要な仕事に携わる理科系の人は本当に素晴らしいと思います。理科系を勧めるもう一つの理由は、理科系から文科系になるのは簡単だからです。けれども一度理科系の勉強をあきらめてしまうと、理科系には戻れません。理科系になるには算数や理科が大事です。勉強には我慢と忍耐が付きものですが、学ぶ楽しさや喜びもたくさんあります。仙台・宮城の皆さん、理科系を目指して頑張りましょう。



### 社団法人 東北経済連合会 会長 高橋 宏明 さん

東北地域では、東北大学の技術をベースに、戦前では東北金属工業(現 NEC トーキン)、東洋刃物、本山製作所、さらに戦後も通研電気工業が設立され、現在に至るまで、東北の経済を牽引する役割を果たしてきております。今、東北が直面している東日本大震災からの産業復興を成し遂げるためにも、ライバルであるアジア諸国の先を行く技術力の確保など、単なる復旧ではなく、科学技術をベースに創造的な復興を遂げることが極めて重要です。そのためにも、科学技術に対する理解を深める機会をつくるのが大切なことになります。『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は、「科学って、そもそもなんだろう?」という基本に立ち返り、科学や技術の背景にある"人"や"プロセス"を自らの五感で体験する場です。次世代を担う子供たちに科学の面白さを体験してもらい、良い機会です。ぜひたくさんの方々が参加し、盛会に開催されることを祈念して、私のメッセージと致します。





## 応援メッセージ ②

### 産業技術総合研究所東北センター 所長 原田 晃 さん

寒かった冬もようやく終わり、暖かい良い季節になってきました。今年も『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』の準備が始まりました。昨年の東日本大震災から立ち直るため、今年は「復興元年」と位置付けられて多くの活動が行われています。「復興」のためには、新しい知識を総動員して、これまでにはない社会システムを築き上げていくことも必要になってきていると思います。震災とそれに続いた事故から、技術に対する不信感が生まれてしまいました。しかし、新たな社会システムを構築していくためには様々な技術革新が必要ですし、それを支える科学の力が重要になってくると思います。よりよい社会を作っていくために、ひとりひとりの科学の力を培って行くことが大切ですし、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』はそのきっかけになる良い場です。皆さんで、楽しい、有意義な催し物にしていきましょう。



### 仙台市科学館 館長 石井 鉄雄 さん

私たちは、毎日、さまざまな科学・技術の恩恵を受けながら暮らしていますが、科学・技術が高度に発達し便利になった半面で、私たちの身近にある科学が見えにくく、また当たり前になってしまって、そこにどんな原理が活かされ、応用されているのか、といったことを考える機会もなくなってきているように感じられます。現代の高度な科学も、学校で学習するような理科、科学を基礎にして成り立っているわけですが、そのつながりは遠く感じられ、科学が本来持っているはずの面白さ、不思議さが感じられにくくなっているように思います。このような中で、「科学や技術のプロセスを五感で感じられる場」を提供する「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ」は、第一線の研究者・技術者の方々が体験・講座のプログラムを持ち寄り、これを通して市民の皆さんが直接最新の科学・技術の面白さ、興味深さに触れることができる貴重な取り組みです。仙台市科学館は、これからもこの活動を精一杯応援してまいります。



### 仙台市天文台 台長 土佐 誠 さん

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2012』のご開催おめでとうございます。私にとって科学とは自然界の疑問や謎を見つけ、自分で考えたり試して疑問や謎を解くプロセス・体験です。これはサイエンス・デイの趣旨「科学のプロセスを五感で体験」とぴったり一致します。もし、皆さんがサイエンス・デイで科学のプロセスを知り、身のまわりの謎や疑問を解いてみたいと思ったら、毎日がサイエンス・デイになり、今まで以上に自然が身近になります。会場の東北大学川内北キャンパスは自然豊かな美しい場所ですが、私にとっては、むかし天文学者を目指して科学の勉強を始めた場所で、学都「仙台・宮城」の中心・原点です。サイエンス・デイに参加して実験やデモンストレーションあるいは展示を見ていると、今でも新しい発見があり、科学の奥深さを実感します。ぜひ皆さんもそれぞれの科学を見つけ、自然をより身近なものにしてください。



### 東北大学大学院文学研究科教授（科学哲学者） 野家 啓一 さん

東日本大震災とそれに続く東京電力福島原発事故は、私たちの科学観や自然観を根底から揺さぶり、科学と科学者に対する「信頼の危機」を引き起こしました。巨大化した科学技術は、必ず何らかの「社会的リスク」を伴います。リスクを回避あるいは縮減するためには、放射能汚染の被害を受けた地域住民がみずから放射線量を測定し始めたように、何事も「専門家任せ」にすることなく、安全・安心を実現するために自分たちの手で科学技術の「シヴィリアン・コントロール」を進める必要があります。そのためにも、私たちは科学の楽しさや面白さだけでなく、その不確実性や危険性をも含めて、最低限の「科学リテラシー」（読み書き能力）を身に付けねばなりません。このサイエンス・デイの試みが、その出発点となることを期待しています。





## 開催概要

名 称…… ①学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2012

②サイエンスデイAWARD2012表彰式・交流パーティー

会 期…… ①2012年7月15日(日) 9:00~16:00

②2012年7月27日(金) 午後を予定

会 場…… ①東北大学川内北キャンパス 講義棟(宮城県仙台市青葉区川内41)

②東北大学片平さくらホール(宮城県仙台市青葉区片平2-1-1)

主 催…… 特定非営利活動法人 natural science (2007年6月設立)

共 催…… 東北大学、独立行政法人産業技術総合研究所東北センター

後 援…… 宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、東北経済産業局、東北学院大学、東北工業大学、社団法人東北経済連合会、公益財団法人東北活性化研究センター、社団法人日本技術士会東北支部、社団法人みやぎ工業会、社団法人発明協会宮城県支部、宮城県中小企業団体中央会、仙台管区気象台、一般財団法人日本気象協会、NHK仙台放送局、東北放送、東日本放送、仙台放送、ミヤギテレビ、DateFM、河北新報社、読売新聞東北総局、産経新聞社東北総局、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、日刊工業新聞仙台総局、時事通信社仙台支社、共同通信社仙台支社、

入場料…… 無料

対 象…… 子どもから大人までどなたでも

来場見込… 約6,000人(2012年実績:約5,800人)

出展費用… 無料(ただし出展に関わるその他の費用は各自ご負担ください)

出展募集… 約80プログラム

参 考…… 昨年度の出展者一覧

①プログラム数… 計76団体・68プログラム

◆講座プログラム:27講座・計86回実施

◆体験プログラム:41ブース

②サイエンスデイAWARD賞新設… 25個人・団体から計30賞

:そのうち当日申込が8賞(小学生:1件、中学生:1件、高校:4件、大学院生:1件)

【講座プログラム】宇宙航空研究開発機構(JAXA)角田宇宙センター、仙台市科学館、日本IBM、ODAプレーン愛好会、仙台市太白少年少女発明クラブ、JX日鉱日石エネルギー東北支店、東北電力宮城支店、NTTドコモ東北支社、産業技術総合研究所東北センター、東北大学環境科学研究科石田研究室、二間瀬敏史氏(東北大学 理学研究科 教授)、織原彦之丞氏(東北大学名誉教授・東北工業大学名誉教授)、東北大学原子分子材料科学高等研究機構(WPI-AIMR)、東北大学工学研究科環境生態工学分野、東北大学生態適応グローバルCOE、東北大学生命科学研究科NEXT Programチーム、加藤諭氏(東北大学文学研究科日本史研究室)、東北工業大学高等学校からくりロボット研究部、仙台青陵中等教育学校科学部、萩野酒造、宮城県産業技術総合センター(協力:宮城県酒造協同組合)、宮城県農業・園芸総合研究所、宮城県古川農業試験場、東北大学理学研究科塚本研究室、東北大学理学研究科中村智樹研究室、仙台管区気象台(協力:日本気象予報士会東北支部)、東北大学GCOE「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」、

【体験プログラム】東栄科学産業、仙台測器社、東北電子産業、みやぎ環境とくしネットワーク、JX日鉱日石エネルギー東北支店、古河電気工業、仙台高等専門学校、NTT東日本宮城支店、東北大学金属材料研究所松岡研究室、東北大学未来情報産業研究館、産業技術総合研究所東北センター、東北大学流体科学研究所、東北大学電気通信研究所末松研究室、東北電力宮城支店、東北大学理学研究科原子核物理研究室、東北大学工学研究科島山・金子研究室、東北大学理学研究科惑星大気物理学研究室、東北大学グローバルCOE プログラム「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」、ミウラセンサー研究所、モミックスジャパン、弘進ゴム、東北大学工学研究科堀切川・柴田/山口(健)研究室、東北学院大学工学総合研究所ナノ材料工学研究部門、TESS、東北学院大学工学部機械知能工学科ロボット開発工学研究室、JR東日本、ジェイアール東日本コンサルタンツ、笹氣出版印刷、仙台市天文台、システム・アイ、東北大学T-semi、東北学院榴岡高等学校物理部、宮城県仙台第二高等学校物理部、宮城県仙台二華高等学校地学部、仙台青陵中等教育学校科学部、防災・減災サポートセンター、宮城県生活環境事業協会、宮城県立仙台高等技術専門学校、宮城県立白石高等技術専門学校、宮城県立大崎高等技術専門学校(協力:東北大学学友会茶道部、宮城県宮城第一高等学校茶道部、宮城県仙台三枝高等学校茶道部)、仙台管区気象台、松栄工機、地盤工学会東北支部、東北大学女性研究者育成支援推進室、fmいずみ、電子情報通信学会有志(東北大学工学部情報知能システム総合学科)

問合先…… 特定非営利活動法人 natural science (担当:大草芳江)

〒980-0023 仙台市青葉区北目町4-7 HSGビル 3 階 Five Bridge 内

Tel/Fax. 022-721-2035

Mail. info@natural-science.or.jp

URL <http://www.natural-science.or.jp/>

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』公式WEBサイトURL <http://www.science-day.com/>

## 企画概要

### 科学のプロセスを五感で感じる・科学で地域が見える

社会の成熟化に伴い、科学や技術はブラックボックス化し、わたしたちは便利さと引き換えに、科学や技術の“プロセス”を五感で感じる機会を失ってきました。しかしながら、科学や技術のもたらす“結果”のみを一方的に享受するだけの姿勢では、科学離れや科学リテラシー不足などの社会的リスクを回避することはできません。ならば、ブラックボックスを少しでも開けてみて、科学や技術の“プロセス”を五感で感じられる場を地域につくりましょう。仙台・宮城は古くより学都として知られ、大学や研究所、企業などが地域の中に密集し、科学や技術が生活と隣り合わせで存在している地域です。この地域の特性を活かし、「科学って、そもそもなんだろう？」をテーマに、大人も子どもも、普段科学に触れている人も触れていない人も、科学や技術の背景にある“人”や“プロセス”を自らの五感で感じられる場として、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を毎年開催します。『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』開催を通じて、「科学」を切り口に地域を再発見し関係性再構築の場として機能することで、よりよい地域社会の実現を目指します。

#### ステップと期待する効果

#### ステップ① 科学の“プロセス”を体験

各出展団体の現場の“人”が「おもしろい」と思う“プロセス”を形にした体験型プログラムを通じて、普段なかなか実感できない“プロセス”を体感することで、子どもから大人まで各人各様の感じ方から自然な形で興味・関心が喚起される。

#### ステップ② 研究者や技術者等の現場の“人”との対話

喚起された興味・関心は各人各様であり、それぞれの人が「知りたい」と思うところから、研究者や技術者等の現場の“人”との対話を通じて、各自が興味・関心を深めることができる。

#### ステップ③ 年間を通じた科学イベントへの参加

本企画の“見本市”的な特徴を活かし、「学都仙台・宮城サイエンスコミュニティ」会員登録により、各出展団体が開催する一般むけ科学イベント（一般公開や市民むけ講座など）情報を市民へ直接的・継続的に配信できるシステムをつくることで、年間を通じて市民が科学に触れられる機会を増やす。

#### ステップ④ 生活の中で関連事項と遭遇

本企画は地域資源で構成されているため、本企画終了後も、市民が普段の生活の中で関連事項と遭遇する機会が多い。これまで何気なく利用していた製品や成果等の“結果”を見ても、本企画をきっかけに“プロセス”があることを想像でき、興味・関心が継続し、身近に感じられる効果が期待される。

#### ステップ⑤ 毎年恒例イベントとして参加

毎年開催により認知度は高まりつつあるが、今後も地道に連携機関を増やし、地域の毎年恒例イベントとして定着化を図ることで、科学・技術に興味・関心のある人から、普段は科学イベントにあまり参加しない人まで、幅広い層が科学・技術を楽しむことができる場を地域に創出していく。

#### ステップ⑥ お互いに応援し合うコミュニティへ

各主体の取組みについて、各主体や市民がお互いに応援し合ったり、表彰し合えるしくみ（サイエンスデイ AWARD等）をつくることで、相互理解を深めながら誰もが主体的に科学に参加できる持続可能な『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』の構築を目指していく。

#### 今年の新しいポイント

#### ☑ 出展形態のシンプル化、出展者・来場者間の情報共有の充実化

より適確な情報共有・よりスムーズな運営を目指して、出展形態をシンプルにすると同時に、当日配布パンフレットの充実化を図ります（参照：出展概要、スケジュール）。

#### ☑ 来場者のネットワーク形成ならびに情報配信システムの構築

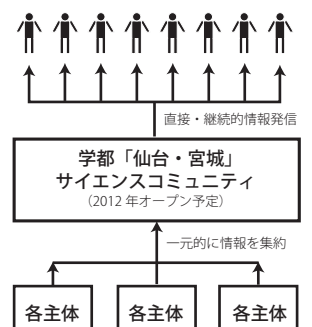
本イベント事前 WEB登録時に参加者が会員登録できるシステムをつくることで（2011年度は、参加者約2,000人が事前登録）、本イベント終了後も地域で開催される各主体の取組み（一般公開や市民向け講座など）を直接的・継続的に市民へ情報発信できるコミュニティを構築します（参照：学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ）。



五色のサイエンスの文字は、「五感で感じること」と「科学の多面性」を表しています。また黒箱は、「ブラックボックスを開けること」と「多様な主体が一堂に集う場」を表しています。



会員（サイエンスデイ時等に登録）



# サイエンスデイAWARD2012



Scienceday AWARD 2012

あなたが「よい」と思ったプログラムに、あなたの賞をあげませんか？

サイエンスデイAWARDは、現代社会では実感する機会の少ない科学や技術のプロセスの中からよいプロセスを選び、顕彰することを通じ、私たちの社会がより心豊かなものとなることをめざした活動です。

サイエンスデイAWARDは、いわゆる科学・技術のコンクールではありません。一般的な科学・技術の評価制度は、その成果を評価しています。しかし、サイエンスデイAWARDは、その成果に至るまでの試行錯誤のプロセスが、「知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資する」という観点、つまり、科学や技術の成果だけでなく、科学的なものの見方や考え、科学に対する姿勢という視点から評価をおこないます。

科学や技術は自然や社会に根ざした思考であり、自然や社会に密着した様々なものごとを生み出す方法論です。したがって、極めて優れた科学や技術の成果が登場しても、それを単に利用するだけでは心豊かな社会を創造することはできません。優れた科学や技術のプロセスが共有されることにより、次、その次に登場する科学や技術が継続的に生み出され、さらなる心豊かな社会が達成されていく。そうした共感の輪をつくりだす場となるのが、サイエンスデイAWARD創設の目的です。

また、サイエンスデイAWARDは、よいプロセスを誰もが共有できるよう、そのよさを第三者の視点から残すことをめざしています。わたしたちが心豊かな社会を生きるために、科学や技術は必要であり、わたしたち一人ひとりが科学や技術を理解していかなければならない時代です。つまり、よい科学や技術は、その思考、方法論を誰もが活用できなければ、存在意義をはたせません。その思考、方法論が、様々な活動において私たち一人ひとりが次のよりよい科学や技術、そして社会を創造する原動力となることを、サイエンスデイAWARDは願っています。

よい科学や技術とは、そもそも何か。そこにはさまざまな視点があります。そのため、サイエンスデイAWARDでは、複眼的な視点から評価できるよう、個人・団体を問わず、誰でも賞を新設することができることとし、審査会場を『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ』として一般公開するなど、開かれた審査を行います。よい科学や技術とは、そもそも何か。サイエンスデイAWARDは、参加する一人ひとりがそれを考え、自由に提案することを通して、心豊かな社会を模索し創造する場となることをめざしています。

## 審査・表彰のプロセス

### ポイント

- ① 賞は、個人・団体を問わず、誰でも気軽に新設することができます。
- ② サイエンスデイ出展プログラムすべてが自動的に審査・表彰の対象となります。
- ③ 賞新設者はサイエンスデイ当日に会場で楽しく審査し、後日開催される表彰式にて授賞者に表彰理由・副賞を授与し、受賞者の健闘を褒め称えてください。

### 必要なもの

6月29日(金) までに提出: ◇ 賞ならびに賞創設者の名称(表彰状に掲載)  
◇ 審査基準

7月15日(日) 当日 【学都「仙台・宮城」サイエンスデイ会場での審査】

7月18日(木) までに提出: ◇ 授賞者名ならびに授賞理由

7月27日(金) 当日 【サイエンスデイAWARD表彰式での表彰】

◇ 副賞(賞創設者の特長を活かした何か)

※ 表彰状は事務局で用意します

## Scienceday AWARD 2012

表彰式・交流パーティー

[日時] 2012年7月27日(金) 午後(予定)

[会場] 東北大学片平さくらホール

- ・ 表彰結果は表彰式とWEBで発表します
- ・ 表彰式後に交流パーティーを行います(交流会実費としておひとり¥2,000)

## 2011年の賞創設者・賞名



- 産総研ありす賞・産総研てれす賞 (独立行政法人産業技術総合研究所 東北センター 所長 原田晃)
- 子ども未来賞 (仙台市教育委員会)
- 仙台市科学館長賞 (仙台市科学館 館長 石井鉄雄)
- 仙台市天文台台長賞 (仙台市天文台 台長 土佐誠)
- 宮城県経済商工観光部産業人材対策課長賞 (宮城県 経済商工観光部 産業人材対策課 課長 林毅)
- WPI-AIMR 賞 (東北大学 原子分子材料科学高等研究機構(WPI-AIMR) 機構長 山本嘉則)
- 流体科学研究所長賞 (東北大学流体科学研究所 所長 早瀬敏幸)
- “きれい”で賞 (東北大学大学院理学研究科 教授 塚本勝男)
- ドクターホッキー賞 (東北大学大学院工学研究科 教授 堀切川一男)
- エミール賞 (東北大学大学院環境科学研究科 教授 石田秀輝)
- 人と社会と地球のために賞 (東北大学大学院工学研究科 環境機能利用工学(三菱マテリアル) 寄附講座)
- NEXT GENERATION 賞 (東北大学生命科学研究科 NEXT Program チーム)
- NI LabVIEW Award (日本ナショナルインスツルメンツ株式会社 代表取締役 池田亮太)
- 東栄科学産業賞 (株式会社東栄科学産業 代表取締役会長 山城巖)
- ミウラセンサー賞 (株式会社ミウラセンサー研究所 代表取締役 三浦賀一)
- 役に立つ地学賞 (特定非営利活動法人防災・減災サポートセンター)
- MELON 賞 (財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク)
- ★ 仙台青陵科学部賞 (仙台青陵中等教育学校 科学部)
- ★ すごいロボットがいてばいで賞 (東北工業大学高等学校 からくりロボット研究部)
- ★ 榴ヶ岡高校 物理部賞 (東北学院榴ヶ岡高等学校 物理部)
- ★ にかにか賞 (宮城県仙台二華高等学校 地学部)
- ★ 八重樫賞 (東北大学大学院工学研究科修士2年生 八重樫和之)
- ★ レゴロボットすごくておもしろかったで賞 (仙台市立南小泉小学校 4年生 宗形昇)
- ★ とってもわかりやすかったで賞 (富谷町立成田中学校 1年生 野口宙)
- ★ 感動をありがとうで賞 (仙台市立片平丁小学校 6年生 板橋嶺) (★: 当日申込された賞)

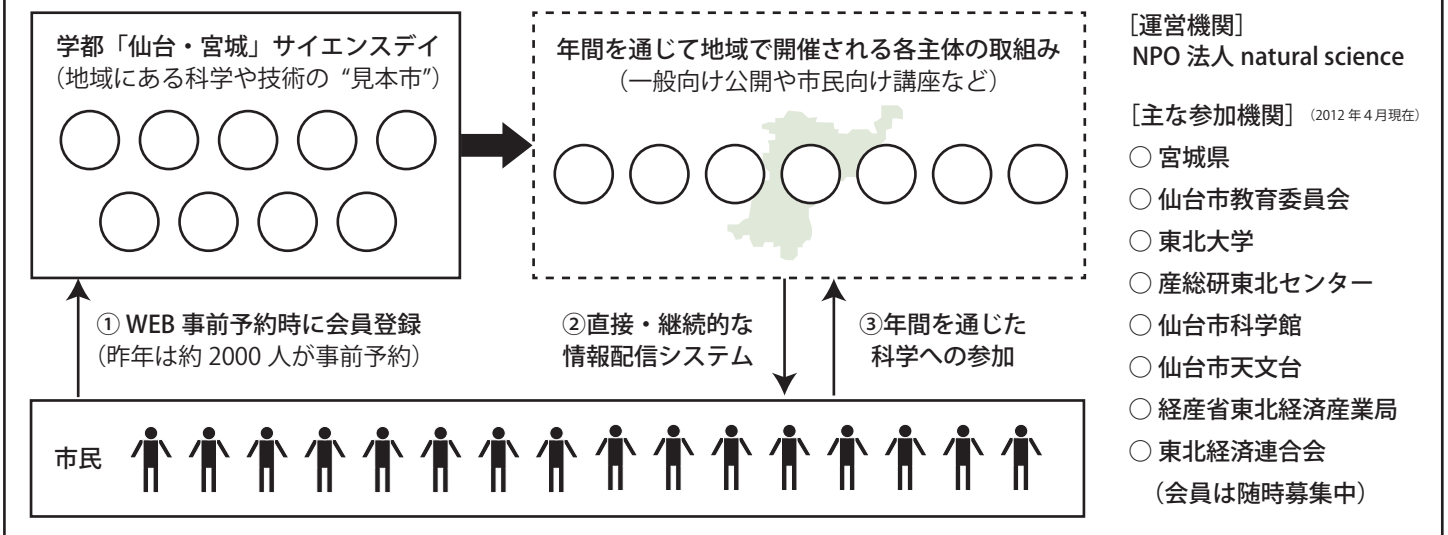


# 学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ

科学や技術のプロセスを子どもから大人まで五感で感じられる場づくりを目指し、『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ』は、皆様のご理解・ご協力のもと、今年で5年目を迎えます。活動の拡大化に伴い、年間を通じて『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ』のネットワークを活用し、さらに外部への発信力を高めたい」というニーズが数多く寄せられるようになりました。

そこで今年は、これまでの活動をベースに『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』をオープンし、サイエンスデイ終了後も、年間を通じて地域で開催される各主体の取組み（一般公開や市民向け講座など）を、市民にむけて直接的・継続的に情報発信できるシステム（サイエンスデイ事前 WEB 登録時に参加者が会員登録する：2011 年度は参加者約 2,000 人が事前予約）を構築することで、各主体の情報発信力をさらに高めると同時に、年間を通じて市民が科学に触れられる機会を増やしたいと思います。『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』会員ならどなたでも、いつでも情報発信・受信が可能ですので、ぜひご活用ください。

## 学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ



WEB／紙媒体  
へ掲載・配布

コミュニティ外にも  
広く情報発信を行う

## 『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ』(合同広報)として約 11 万部配布

**第 1 締切日 (2012 年 6 月 15 日) 迄**に情報提供された毎年 7 月以降に開催予定の各取組み（一般公開や市民向け講座等）は、『学都仙台・宮城サイエンスマップ』として、全仙台市立小・中学校や出展する近隣高校等に約 11 万部配布します（合同広報）。



## 出展概要

### 1. 日時・会場・料金について

#### ① 学都「仙台・宮城」サイエンスデイ 2012

【日 時】2012年7月15日(日) 9:00～16:00

【会 場】東北大学川内北キャンパス講義棟(仙台市青葉区川内 41) **地図①**

【出展費】**無料**(ただし出展に関わるその他の費用はご負担ください)

#### ② サイエンスデイ AWARD2012 表彰式・交流パーティー ※出展者はご参加ください

【日 時】2012年7月27日(金) 午後予定

【会 場】東北大学片平さくらホール(仙台市青葉区片平 2-1-1) **地図②**

【参加費】おひとり 2,000 円(交流会実費)



### 2. 出展内容について

下記2点を満たす体験型プログラムを募集します

① 科学や技術の「プロセス」を感じられること

② 現場の「人」と直接対話できること

※研究者・技術者等が「おもしろい」と思う科学のプロセスの一部を形にしてください。



### 3. 出展ブース・備品について

- ① **ブース形態** : 「オープン型」もしくは「クローズ型」からお選びください。※オープン型とクローズ型の複数出展も可能です。
- ② **希望出展面積** : 希望する出展面積 (㎡) を申込用紙にご記入ください。※全体のスペース調整のためご希望に添えない場合もございます。
- ③ **予約制の有無** : 「予約制」の場合、当日配布される整理券を入手した来場者のみ参加可能となります (WEB 事前「優先予約」あり)。
- ④ **必要な電力量** : 電源利用の場合、ご希望の電力量 (W) を申込用紙にご記入ください。

オープン型ブース	クローズ型ブース
<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●多くの来場者が入退場自由で参加できるプログラムに適しています。</li> <li>●必要スペースに応じて教室を複数団体でシェア or 単独で使用します。</li> <li>●イベント当日はブース区画の目印(テープ)を事務局で貼ります。</li> <li>●付属備品の机・椅子は窓側に寄せています(バックヤード)ので、その中から必要分を、各出展者で自由に配置してご利用ください。</li> </ul> <p>【付属備品】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●机・椅子</li> </ul>	<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●体系的な解説を伴う工作・実験・講演等のプログラムに適しています。</li> <li>●定員(20～30人程度、講義形式で最大49人)や対象を設定できます。</li> <li>●「予約制」の場合、事務局にて参加者募集・整理券配布を行います。</li> </ul> <p>【付属備品】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●机・椅子</li> <li>●液晶プロジェクター・電動スクリーン・遮光カーテン・ビデオ装置</li> <li>●ハンドマイク、ピンマイク</li> </ul>

#### 【注意事項】

- 付属備品以外は、すべて出展者でご用意ください(延長ケーブルやパネルボード、PC等はありませんので各自ご持参ください)。
- 会場内は**火気厳禁・禁煙**です。

### 4. 会場下見会、搬入・搬出について

- 物品・パネル等の搬入・搬出は、各出展者でご負担をお願い申し上げます。
- 会場下見会を6月22日(金)①14:00～②16:00～に行います。希望者は事前にご連絡ください。
- 前日の7月14日(土)に搬入・準備を希望の場合、会場割振の関係上、事前にご連絡ください。
- 当日の7月15日(日)の搬入・準備は7:00～9:00、搬出・片付は16:00～18:00の時間です。
- 展示後の物品やゴミ等に関しましては、各自お持帰りください。



東北大学川内北キャンパス講義棟(外観)

### 5. 申込・締切日について

- 出展申込書に必要事項を記入し、e-mailにて、特定非営利活動法人 natural science (info@natural-science.or.jp) 宛にご送付ください。
- 【第1締切日】2012年6月15日(金): 15日までに提出いただいた**プログラム名と団体名を広報物(約11万部配布)に掲載**します。
- 【第2締切日】2012年6月22日(金): 「**予約制**」希望出展者は、WEB募集の関係上、22日までに**出展内容情報**をご提出ください。
- 【最終締切日】2012年6月29日(金): 29日までに提出いただいた**出展内容情報**を、**当日配布パンフレットに掲載**します。



# スケジュール

日 時	サイエンスデイ出展者の動き	AWARD 賞創設者の動き	広報・告知
4月中旬～			・ 出展案内の公開 ・ 趣旨説明
6月15日(金)	【第1締切日】 6月15日(金)までに提出された団体名とプログラム名を告知媒体に掲載・配布(★)		科学イベント情報源『学都仙台・宮城サイエンスマップ』として配布
6月22日(金)	【会場下見会】 場所：東北大学川内北キャンパス 時間：①14:00～ ②16:00～ (ツアー形式で計2回実施) ※希望者は事前にご連絡ください  【第2締切日】 「予約制」希望の出展者のみ、WEB募集の関係上、申込締切日が1週間早まります。		 (表)サイエンスデイ告知  (裏)科学イベント情報源 【募集中】12年度夏～の科学イベント(一般公開や市民向け講座等)を合同広報します
6月最終週～			★ 告知媒体を全仙台市立小・中学校に全児童・生徒分(約210校・約9万部)＋近隣高校等(約2万部)＝計11万部配布
6月29日(金)	【最終締切日】 6月29日(金)までに提出された出展内容が当日配布パンフレットに掲載されます。	【提出締切日】 ◇賞名ならびに賞創設者名 ◇審査基準	◆「予約制」プログラムについては、WEBにて「予約優先権」募集開始 ◆プレスリリース①(サイエンスデイ開催)
7月14日(土)	【準備日】 イベント前日の搬入・準備の希望者は、会場割振の関係上、事前にご連絡ください。		
7月15日(日)	【学都「仙台・宮城」サイエンスデイ2012】 07:00-09:00 搬入・準備 09:00-16:00 イベント 16:00-18:00 片付・搬出	【審査日】 会場にて審査	
7月18日(木)		【提出締切日】 ◇授賞者ならびに授賞理由	
7月19日(金)			◆ノミネート団体名の発表 ◆プレスリリース②(AWARD表彰式開催)
7月27日(金)	【サイエンスデイ AWARD 表彰式・交流会】 東北大学片平さくらホールで午後開催予定 (注)サイエンスデイ会場とは別会場です。	【表彰】 授賞理由ならびに副賞の授与	


▼6月29日(金)までに提出された出展内容情報が当日配布パンフレット(参考：下記例)ならびにWEBに掲載されます。

CLOSE  
クロス型ブース

講義棟B棟2階／B204


## はんだづけを体験してみよう！

(特定非営利活動法人 natural science)



【対象】 小学1年生～おとな  
【人数】 各回10人×計6回  
【予約】 必要(受付で整理券)  
【見学】 可

natural science では、単に知識を暗記するのではなく、実感を伴いながら、科学的な因果関係を認識し自ら積み上げていく力、すなわち科学的思考力を養うことを目的とした「ものづくり講座」を小中学生むけに開発・開講しています。授業は既存のキット製品を用いた学習ではありません。抵抗やトランジスタ等の部品一つひとつの役割を理解しながら、自らの手でつくり、自らの頭で考え、試行錯誤しながら、科学的な因果関係を自ら組み立てていくプロセスを重視しています。サイエンスデイでは、電子工作の基本となるはんだづけを、体験してみよう！自分でつくったLEDライトはおみやげにできます。また、13:00～受講生による作品発表会(★)もあります。



①～⑥工作教室(各30分)。その他時間も見学可能です。

9 10 11 12 13 14 15 16(時)

① ② ③ ④ ★ ⑤ ⑥

※ 時間割の一般的な例(昨年度の傾向から)

例1)	<p>9 10 11 12 13 14 15 16(時)</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>← 昨年度の「講座ブース」に多いケース ← 予約不要の設定も可能です。</p>
例2)	<p>9 10 11 12 13 14 15 16(時)</p> <p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺</p>	<p>← 昨年度の「体験ブース」に多いケース ← 休憩や会場見学の時間も設定可能です</p>

(実物大)